

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 28 日作成)

委員会名	煙突構造小委員会	主 査 名：山田大彦
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会	委員長名：西川孝夫
設 置 期 間	2003年 4月 ～ 2007年 3月	
設 置 目 的 各年度活動計画	近年における煙突あるいは集合煙突の多様化と構造設計方法の変化に対応すべく、調査研究を踏まえ、「煙突構造設計指針（仮称）」の出版を目指している。今年度は、最近の設計の動向および過去の地震被災事例の検討、地震応答の系統的解析例の検討を行ったほか、役割分担を明確にして、執筆項目および内容の整理を行ってきた。	
委員構成 (委員名（所属）)	山田大彦(東北大学)、田村幸雄(東京工芸大学)、宮村正光(鹿島建設)、藤山淳司(大成建設)、瀬谷均(竹中工務店)、辰巳佳裕(清水建設)、松岡利隆(大林組)、本田明弘(三菱重工業)、飯田泰彦(JFE エンジニアリング)、貫井泰(東京電力)、伊藤隆文(東電設計)	
設置 WG (WG 名：目的)	煙突の地震荷重WG (2004/10～2006/3)： 地震応答解析に用いる入力地震波の選定、解析モデルの決定、モデル煙突の選定と地震応答解析の実施、応答結果の整理・評価、動的耐震設計フローの見直し、地震荷重算定法の提案	
2004 年度予算	80,000円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	(1) 5月14日 12名 (2) 7月6日 11名 (3) 9月16日 14名 (4) 12月7日 11名 (5) 3月15日 12名
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)
	<p>RC煙突および鋼製煙突あるいは集合煙突の構造について以下の調査・研究活動を精力的に実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 我が国における基規準に加え、アメリカ、オーストラリアおよびEUにおける規準に関する最新情報を収集し、調査した。 2) 過去から現在に至る地震被害について事例を収集し、被害の特徴と構法・設計・施工と関連を調査した。 3) 指針作成にあたり、目次の構成と執筆の担当決定を既に終え、耐震設計に関する作業についてはWGを結成するなど、具体的な作業に入った。 4) コンタクトポイントのシステムを活用し、現行告示の改善を提案して認められ、現在当該告示の見直し作業が行われている。
目標の達成度	<p>委員会 HP アドレス：</p> <p>(当初の活動計画と得られた成果との関係) 2004年度発足当初に照らし、委員およびWGメンバーの活動により、100%目標を達し得た。 準備期間において、予め指針の構成と関連する要調査項目を検討しておいたことが大変有効であった。</p>
その他評価すべき事項	特になし。